

日本分析化学会高分子分析研究懇談会

会員各位

高分子分析研究懇談会

委員長 寺町 信哉

## 第 322 回例会開催のご案内

第 322 回例会を下記の通り開催いたしますので、万障繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

### 記

日 時 2004年2月3日(火) 13時30分～17時00分

場 所 簡易保険会館「ゆうぽうと」末広(03-3490-5111, JR 山手線五反田駅下車徒歩5分)

会場案内図 <http://www.u-port.kfj.go.jp/accs/accs.html>

講演・ワークショップ 13:30～17:00

1. 講演 1 (13:30～14:30) 「超臨界流体クロマトグラフィーにおける周辺技術の開発」

豊橋技術科学大学・物質工学系 平田幸夫

演者は、移動相として主に二酸化炭素を用いた超臨界流体クロマトグラフィー(SFC)において、基礎技術の開発に取り組んできた。また最近では、分離能の向上を目指して、様々な分離技術の開発を行っている。本講演では、SFC の特徴を概説するとともに、2D-SFC、3D-SFC、comprehensive 2D-SFC、tandem column SFC、on-line SFE/SFC 等について、それらの特徴と応用例を紹介する。

2. ワークショップ 1 (14:40-15:10) 「温度勾配相互作用クロマトグラフィーによるポリマーの分離」

工学院大学 松元 洋

温度勾配相互作用クロマトグラフィー(TGIC)は、高分子の分子量測定の新手法として、その優れた分解能から注目されている。従来、その多くは逆相 TGIC での報告であり、順相系ではほとんど報告されていない。今回は、順相 TGIC における温度勾配の方向性について検討した内容を中心に、TGIC の概略とともに紹介する。

3. ワークショップ 2 (15:20-15:50) 「超臨界メタノール分解を利用する紫外線硬化樹脂のネットワーク構造解析」

名古屋大学 石田康行

紫外線硬化樹脂は、一旦硬化すると三次元網目構造をもつ不溶不融の架橋高分子となるため、硬化後の物性と密接に関連した化学構造の解析は十分には行われていなかった。本発表では、超臨界メタノール分解と MALDI-MS を組み合わせることにより、当該硬化樹脂のネットワーク構造の詳細なキャラクタリゼーションを行った内容について紹介する。

4. 講演 2 (16:00-17:00) 「天然樹脂のキャラクタリゼーションと歴史的工芸品の塗膜同定」

日本電子データム 新村典康

天然樹脂は古くから塗料や接着剤として用いられてきた。しかし、これらを分析する有効な手法はこれまで確立されておらず、重合機構や詳細な構造などは明らかにされていなかった。本発表では天然樹脂のキャラクタリゼーションに有効な手法を紹介し、データ解析法や歴史的工芸品の塗膜同定への応用例などを解説する。

申込方法 参加希望者は、別紙の参加申込書にご記入のうえ、FAX 又は E メールによりお申し込みください。

申込先 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号

社団法人 日本分析化学会 高分子分析研究懇談会

[電話: 03-3490-3351, FAX: 03-3490-3572, E-mail: ktanaka@jsac.or.jp]